

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 26 日現在

機関番号：12201
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2014～2016
 課題番号：26770215
 研究課題名(和文)大名と江戸町名主の社会的・経済的関係の解明による明治維新史の新側面に関する研究

 研究課題名(英文)Research on the new aspect of Meiji Restoration; elucidating the social and economic relationship between a daimyo and a town-headman in Edo

 研究代表者
 高山 慶子(TAKAYAMA, Keiko)

 宇都宮大学・教育学部・准教授

 研究者番号：90566522

 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、譜代大名である宇都宮藩戸田家と江戸の名主である馬込家が、幕末維新时期という激動の時代をいかに生きたのかを、金銭貸借関係をはじめとする両家の社会的・経済的関係に着目して明らかにしたものである。研究成果は以下の通りである。(1)戸田家と馬込家は、藩としての金銭貸借関係の解消後もつながりを維持した。(2)馬込家は現在の栃木県で養蚕製糸業などさまざまな新規事業に着手した。(3)戸田家のもう一人の江戸の金主である豪商川村家の特徴には、馬込家との共通点と相違点がみられた。(4)大名家と特殊な関係を形成した馬込家は、特有の歴史的背景や家の特徴を有した。

研究成果の概要(英文)：This research aims to make clear how the Toda family (a daimyo of the Utsunomiya domain) and the Magome family (a town-headman in Edo) lived through the last days of the Tokugawa government and the time of the Meiji Restoration, by analyzing the social and economic relationship between these two families.
 The research results are as follows. (1)The Toda family and the Magome family retained the connection after the dissolution of the lender/borrower relationship. (2)The Magome family started to carry on the sericulture and the silk reeling industry and other enterprises in Tochigi prefecture. (3)The Kawamura family, whose head was a wealthy merchant in Edo and also lent a great amount of money to the Toda family, had some characteristics similar to and different from those of the Magome family. (4)The Magome family had various unique background and characteristics, and formed the special relationship with the daimyo family.

研究分野：日本近世史

キーワード：大伝馬町 馬込家 宇都宮藩 戸田家 川村伝左衛門(迂叟) 大崎商舎 栃木県 ウィリアム・アダムス

1. 研究開始当初の背景

明治維新史の研究は、かつては明治新政府を構成するに至る薩摩藩や長州藩などの西南雄藩や、明治以降に成功を収めた政商や新興商人などに注目して行われてきた。近年は鈴木壽子『幕末譜代藩の政治行動』(同成社、2010年)など、旧幕府側の譜代藩に関する研究が進められており、本研究に關係する宇都宮藩の幕末維新时期についても、鈴木拳「文久二年前半期の宇都宮藩の動向」(『栃木県立文書館研究紀要』13、2009年)、田中有美「坂下門外の変以前の大橋訥庵と宇都宮藩」(『立命館言語文化研究』23、2012年)などの成果がある。これらの研究は、おもな関心が政治史の解明に置かれているが、今後は社会史あるいは経済史的な側面との関連を検討することが期待される。

本研究は北関東の譜代藩である宇都宮藩を分析対象とするが、おもな関心は宇都宮藩の財政・経済的な側面、そしてその側面で宇都宮藩につながる人びととの社会的な関係を明らかにすることにある。

本研究の最大の特徴は、その宇都宮藩の財政・経済的な実態を江戸の町人(名主・豪商)の側から分析し、大名と町人との関係を明らかにする点にある。分析の中核となる史料は江戸の名主である馬込家に伝来した古文書(馬込家文書)であり、研究代表者はこれまで同文書の分析による成果を近世都市史の分野で発表してきた。それに対して、江戸町人の側から大名との経済的な関係に着目して幕末維新时期の実態を明らかにするという本研究の分析手法は、近世都市史という分野の枠を超えて、明治維新史や大名財政史に接近する独創的な研究として、新たな成果を期待できると考える。

なお、大名財政の研究は、伊藤昭弘『藩財政再考 藩財政・領外銀主・地域経済』(清文堂、2014年)が刊行されたのをはじめ、近年は精力的に研究が進められている分野の一つである。伊藤著書は、大名家はこれまで言われてきたような経済的苦況にあったわけではなく、潤沢な資金力があつたとする説を提起し、従来の通説に再検討を迫っている。伊藤説は佐賀藩などの西南雄藩をおもな事例としているが、北関東の宇都宮藩でも同様の状況がみられたのか、異なるとしたらどのような事情によるものかなど、本研究の成果は大名財政研究の一事例として寄与することも期待される。

2. 研究の目的

研究代表者はこれまでの研究において、近世後期から明治初期にかけて、江戸の名主である馬込家が、自身が支配する町々の豪商から金銭を調達し、それを宇都宮藩戸田家に融通していたことを明らかにした(高山慶子

「江戸町名主の金融 大伝馬町名主馬込勘解由を事例として」、『史学』77巻2・3号、2008年)。宇都宮藩の戸田家に限らず、大名は領地から上がる年貢米を担保に借金をしたので、明治維新で領地と領民を朝廷(天皇)に返上すると、大名たちの借金は明治政府が引き継ぐことになった。これまでの分析では、馬込家は明治政府を相手に貸付金の回収を試みたが、戻ってきたのはごく一部にとどまり、事実上の貸し倒れにあったことが判明している。

以上をふまえ、本研究では、上記のような形で金銭の貸借関係が解消した宇都宮藩戸田家と名主の馬込家との関係がその後どのようになったのか、また廃藩置県で藩がなくなった戸田家と貸金の回収が叶わなかった馬込家が、それぞれの困難な状況下でどのように生きたのかを分析する。

明治新政府や明治以降に成功を収めた政商・新興商人の側ではなく、近世から近代への時代の転換期に勢力を失い、歴史の表舞台から姿を消した譜代大名や江戸町人の視点で維新时期およびそれ以降の動向を明らかにすること、幕末維新时期を政治史ではなく社会経済史として、さらには政治史と社会経済史を連動させて分析すること、そしてこれらの分析を通して従来の研究とは異なる新たな明治維新史像を提起することが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 江戸大伝馬町名主馬込家文書の分析

東京都江戸東京博物館に所蔵されている馬込家文書には、馬込家と宇都宮藩戸田家との関係を示す史料が多く含まれている。これまでは近世文書を中心に分析を進めてきたが、本研究ではおもに明治以降の古文書の解読・分析を進める。

(2) 宇都宮藩戸田家文書の分析

宇都宮藩戸田家文書は、栃木県立文書館や宇都宮大学附属図書館などに所蔵されている。本研究では『栃木県史』や『史料宇都宮藩史』などの活字史料だけではなく、未翻刻の史料を含めて広く戸田家文書を調査・収集し、戸田家の財政・経済的な側面を中心に分析を行う。

(3) 関連史料の調査

馬込家文書と戸田家文書の解読・分析を並行して進めながら、馬込家や戸田家の動向を確認できる周辺史料の発見を目指す。具体的には、特に幕末維新时期を中心とする、江戸・東京関係の史料を重点的に調査する。新史料の発見により、馬込家と戸田家との関係について、より多角的な分析が可能になると考える。

(4) 明治維新史文献の収集・整理

以上の(1)～(3)の分析を進めながら、その分析結果を研究史のなかに位置付けるため、これまでの明治維新史研究の文献(先行研究)の調査・整理を行う。当該作業を通して、近世都市史研究と明治維新史研究との接点を探る。

4. 研究成果

(1) 江戸町名主の馬込家と大名の宇都宮藩戸田家は、明治以降、宇都宮藩としての金銭貸借関係が清算された後も、つながり・結びつきを維持したことが明らかになった。

明治以降の馬込家は、名主としての実績を活かして東京府の役人になることも不可能ではなかったが、その道を選ばなかった。また名主役とともに近世期につとめた道中伝馬役に関連する業種に就くこともなかった。馬込惟長(馬込家当主)は、明治9年(1876)に戸田忠友(戸田家当主)と証書を交わしたが、その内容は、戸田家が財産の運用を馬込家に託し、馬込家は自身の財産を担保に差し出してそれに応えるというものであった。馬込家の担保物件の中には、下野国芳賀郡粕田村の蚕室・機械および桑畑・葡萄畑などが含まれていることも判明した。明治以降の馬込家は、華族となった戸田家とともに生きる道を選び、戸田家、および宇都宮藩の旧領地が存在した下野国(現在の栃木県)と深いつながりを有したといえる(雑誌論文)。

(2) 明治初期の馬込家は、旧宇都宮藩主の戸田家とのつながりをもとに、下野国内で養蚕製糸業に取り組んだことが判明した。ほかにも、栃木県内で産出される大谷石などの石材を東京で販売することを画策したり、綿糸紡績を試みたりするなど、新たな産業に手広く着手・挑戦したと考えられる。一連の過程では、明治の殖産興業期に一貫して栃木県の産業振興に関与した栃木県官吏の仲田信亮との書簡のやりとりがみられ、馬込家も栃木県の殖産興業に少なからず関係したといえる(雑誌論文)。

(3) 宇都宮藩戸田家の側から分析を進めると、戸田家が財政・経済的な関係を有した江戸の町人は、名主の馬込家だけではなく、豪商の川村家が存在したことが判明した。明治5年(1872)の旧宇都宮藩の債務総額は48万0589両であるが、そのうち馬込勘解由に対する債務高は8万5642両、川村伝衛は6万6287両であり(『栃木県史』史料編・近世2、1976年)両者は戸田家の二大金主である。

川村家は、寛政元年(1789)以降、幕府の勘定所御用達をつとめた江戸の豪商であり、明治4年(1871)に近代的な製糸工場である大嶮商舎を下野国河内郡石井村に設立し、養蚕製糸業を営んだ。この川村家の事蹟は栃木県

内でもよく知られているが、一方の馬込家についてはまったく知られていない。馬込家と川村家には、江戸の町人、宇都宮藩戸田家の金主、明治以降の養蚕製糸業などという共通点がみられるが、明治以降大きな成功を収めた川村家に対して、馬込家の新規事業は軌道に乗らなかったとみられる(雑誌論文、学会発表)。何が両家の道を分けたのかについて、戸田家との関係をふまえながら、今後もさらなる追究を続けていきたい。

(4) 戸田家と馬込家との関係は、当主同士の関係だけではなく、妻子間でも贈答が行われていたことが確認され、両家は特別な深い関係にあったと考えられる。本研究では、大名の戸田家とこのような特別な関係を形成することができた江戸町人の馬込家とは、どのような家であったのかという点に改めて注目した。

研究代表者はかつて馬込家の縁戚関係を分析し、馬込家は大名家、徳川御三家の家臣、幕府代官手附といった武家との間で婚姻や養子取組を行うなど、身分的・文化的に上位の家の者と縁戚関係を形成する志向を有したことを明らかにした(高山慶子「江戸町名主の社会的位置 大伝馬町名主馬込家を事例として」志村洋・吉田伸之編『近世の地域と中間権力』山川出版社、2011年)。その中では、馬込家初代の娘が英国人のウィリアム・アダムスに嫁したとされる点にも言及したが、この説については史料的な裏付けが確認されておらず、史実か否かについては見解が分かれている。

本研究では、明治維新时期の動向を規定した馬込家の家としての特徴がいかなるものであったのかを明らかにするために、この縁戚関係を含めた馬込家初代の社会的な位置を知る必要があると考え、当該期のウィリアム・アダムス周辺の史料の調査・収集を行った。その結果、近世初期の馬込家は、初代将軍の徳川家康をとりまく、ウィリアム・アダムスを含む多種多様な人びとのなかの一人であった様相が明らかになってきた。近世を通しての家の特徴や社会的な位置付けの変化を検討し、そのなかに幕末維新时期を位置付けることで、馬込家にとって徳川時代の終わりが何を意味し、馬込家にとっての明治維新とは何であったのかを明らかにできると考える(学会発表)。この点については、今後も分析を深めていきたい。

以上の研究成果は、一部は当該研究期間内に学術雑誌に発表したが、学会や研究会での発表にとどまるものや未発表のものもある。現在はそれらを学術論文および著書(単著・共著)として発表するための作業を進めている。本研究の成果をふまえて、今後も関連する研究を継続・発展させていきたい。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

高山慶子、栃木県官吏仲田信亮の旧江戸町名主馬込惟長宛書簡 大谷石などの栃木県産石材をめぐって、宇都宮大学教育学部研究紀要、査読無、66、2016、51-64

高山慶子、江戸町名主馬込勘解由の明治維新、日本歴史、査読有、802、2015、37-52

[学会発表](計4件)

Keiko TAKAYAMA, The Experience and the Memory of the Meiji Restoration the Case of a Daimyo and Townspeople in Edo, Invitational Lecture, March 21 2017, Purdue University (West Lafayette, USA)

高山慶子、宇都宮藩戸田家の経済事情、宇都宮市制120周年記念講演会、2016年6月4日、栃木県立博物館(栃木県宇都宮市)

高山慶子、江戸大伝馬町の馬込勘解由 江戸から明治、ある家の歴史、近世近代研究会、2015年9月20日、青山学院大学(東京都渋谷区)

高山慶子、宇都宮藩戸田家と江戸町名主馬込家との関係をめぐって 幕末維新期を中心に、下野近世史研究会、2014年12月6日、宇都宮大学(栃木県宇都宮市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

高山 慶子 (TAKAYAMA, Keiko)
宇都宮大学・教育学部・准教授
研究者番号：90566522